

## 子ども理解にもとづく授業づくり、学級づくり

「個を育てる教師の集い」 社会科の初志をつらぬく会 池袋の会・宇都宮サークル

### 〇テーマについて

私たちは一人ひとりの子どもを大切に、育ててゆくことを念願しています。私たちは、その願いを、授業と学級づくりを通してかなえようとしてきました。ですから、子ども理解に強くこだわります。子どもから、糸口や手がかりを得ることが欠かせないからです。

学級には、たいてい“気になる子”がいるでしょう。その子は、もしかしたら私たちに“問い”を投げかけているのかもしれない。授業で、学級で、その子が生きているかどうか改めて考えるよう求めて。私たちは、そのように考えるのです。

子どもは、予想をはるかに超えて変容することがあります。思いがけない宝物を秘めていることもあります。その意味からも、一人ひとりの子どもから出発を図る必要があります。さまざまな教育問題が山積している今だからこそ、そう言えるのではないのでしょうか。

### 〇日時

2014（平成26）年1月11日（土）～12日（日）

### 〇会場

ハートピア熱海

〒413-002 静岡県熱海市伊豆山717-18 (<http://www.h-atami.com/>)

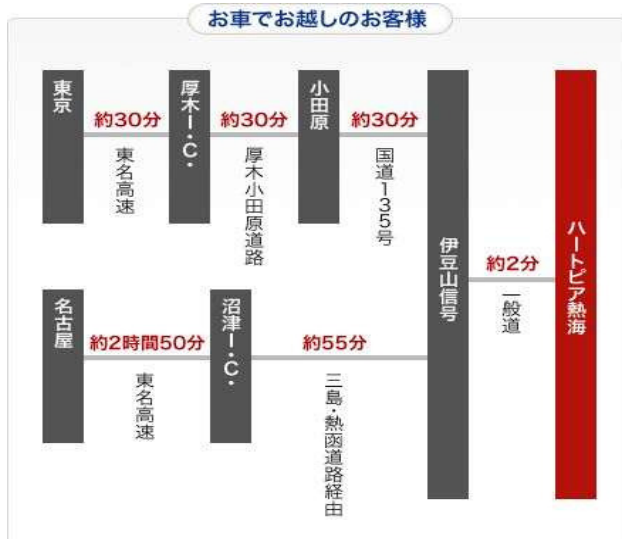
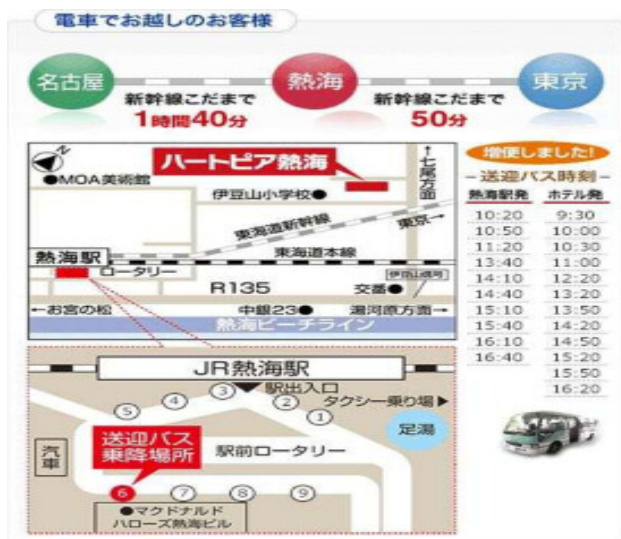
TEL 0120-405-056（フリーダイヤル）

FAX 0557-80-4053

※駅前バスターミナル6番のりばから「七尾原循環」バスで約8分

「伊豆山老人ホーム」バス停下車徒歩約5分

※下記のように送迎バスが運行しています。



## ○日程

◇1月11日(土)

12:15~13:00 受付

13:00~13:30 全体会①(開会の挨拶・提案者より・諸連絡)

13:45~18:00 分科会①

19:00~21:00 夕食

21:00~ 関東地区の仲間と語り合う会

◇1月12日(日)

7:30~ 8:30 朝食

9:00~10:15 分科会②

10:30~12:00 講演会  
講演「教師の人間を見る眼」  
講師 上田薫(本会名誉会長)

12:00~ 全体会②(閉会の挨拶・諸連絡)

## ○実践提案者の主張

○友だちとの学び合いの中で自分の考えを深め、伝え合うことができる授業を目指して  
4年 社会科「ごみのしよりと利用」

提案：大洗町立大洗小学校 大場 俊彦

「学びに深まりのある授業をつくるにはどうしたらよいか」これが私の課題とするところで  
す。本学級の子どもたちは、友だちとの学びを楽しんでいる一方、自分の思いや考え  
をうまく相手に伝えることを苦手としています。本実践では、身近な地域のごみ問題を取り  
上げることにしました。友だちとの様々な見学や調査、話し合いなどを通して「MYごみ減量  
プラン」をつくりあげることによって、学びが深まり、楽しみながら自分の考えを伝えてい  
くことができるのではと考えました。ご参加の皆様と議論しながら、多くのことを学ばせて  
いただきたいと思います。

○文学作品を通して生活経験を語ることを目指して

4年 国語科「ごんぎつね・きみはほんとうにステキだね(絵本)」

提案：清瀬市立清瀬第八小学校 横森 忍

私は情緒の通級指導学級の担任をして2年目になります。また、新規採用され2年目の教員  
です。今回の実践はY君と私、二人きりで絵本や教科書を読み聞かせしながら対話する形で  
授業を行ったものです。普段、通常学級では困った子・大変な子として見られているY君が  
絵本を通して生活経験を語ります。参加される先生方は、普段、大勢の子供たちと向き合っ  
て授業されていることかと思えます。二人きりの授業は、想像することが難しいのではない  
でしょうか。私にとって、二人きりの授業は子どもを教育することの難しさを痛感させられ  
るものです。先生の求めているものとは、異なった授業です。ですが、一対一での授業記録  
をサークルの先生方に見て頂くと、自分自身が知らない新たなY君に出会うことができました。  
2年目の実践なので、いたらない所ばかりですが、分科会に参加して頂きたいと思えます。  
よろしくお願いします。

○地域素材を通して今かかえる問題を話し合う子どもの姿について

5年 社会科「くらしと環境を守る人々 ～わたしたちの生活と砂防林～」

提案：平塚市立なでしこ小学校 高橋頂文

私が勤務する平塚市立なでしこ小学校は、相模湾に臨む沿岸地域に位置しています。そこで、本単元では、子どもたちの生活の中にある砂防林を取り上げ、自分たちの生活とのつながりについて考えました。地域教材を取り上げることで、子どもたちは生活体験をもとに、話し合い活動を展開していきます。砂防林というフィルターを通して、その後ろにある人々の働きや思いにどれだけ迫ることができたでしょうか。地域教材を扱うことの良さや難しさを感じた学習でした。皆様にご指導をいただきながら、改めて学ばせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○教材に秘められた切実性を、どう、その子にとって切実なものにしていくか

6年 社会 「特攻隊と戦争 ～その命のあり方が教えてくれること～」

提案：入間市立西武小学校 木下智実

6年生になるまで教師の言葉を素直に受け止めてきたように感じた子ども達。教師が選んだ活動に、なにも疑問をもたずに取り組むが、「自ら進んで」という姿に結びつかない子ども達の姿に担任として問題意識を抱いてきた。本単元では、太平洋戦争の中、懸命に生きた人々の思いを知り、その時代の人達に近づこうとする活動を通じて、自分たちの今のあり方を見つめ直すきっかけを見つけて欲しいと願い、単元構成を考え、主に「特攻隊として生きた人々の思い」を追求することを中心に授業を進めた。そのような私の願いの中で「歴史は好きになってきたけど、ノートを書くのは嫌い、めんどくさい」とつぶやくK児。このようなクラスの雰囲気を作る子ども達を、本単元を通してどこまで本気にさせられるのか、私自身の授業づくりの挑戦でもある。先生方のご意見をうかがう中で、私の実践のあり方も問うてみたい。

○講演 「教師の人間を見る眼」 上田薫 本会名誉会長

○講師紹介

1920年生まれ。1942年、京都大学文学部哲学科入学。その後、学徒出陣、見習士官として中国へ出征。復員後まもなく文部省に入り、小学校社会科学習指導要領の作成を担当する。その後、名古屋大学教授、東京教育大学教授（移転紛争時に自ら辞任）、立教大学教授、都留文科大学学長を歴任。本会名誉会長。著書『上田薫著作集（全15巻）』（黎明書房）他多数。

○上田先生から一言

私は若いときから原稿をもって話をしたことはありません。壇に上ってから考えはじめ、考えながら話していきます。それが私にあったやりかたで、大学の授業も同じです。初志の会での話も最終に近く、今回はやわらかく話すつもりです。現実はまだことにきびしいですけど。

## ○参加申し込み

### (1) 参加費

- ・ 宿泊 17000円 (学生 15000円) 1泊2食付
- ・ 通い (夕食まで参加) 9500円 (学生 8000円)
- ・ 通い (夕食なし) 3500円 (学生 2000円)

### (2) 申し込み方法

- ・ 氏名、所属先、連絡先、希望分科会、宿泊の有無を e-mail 又は F A X でお申し込み下さい。※できるだけ e-mail でお願いします。F A X の場合は下部の申込書を御利用下さい。

e-mail ([kennkyuusyukai2014@yahoo.co.jp](mailto:kennkyuusyukai2014@yahoo.co.jp))

F A X 028-666-4514

- ・ 参加費は、当日受付でお支払いください。

### (3) 締め切り日

平成25年12月26日(木)

## 「2013新春関東研究集会」参加申込書

ふりがな お名前				
学校等 勤務先				
連絡先 住所	〒			
電話 (携帯)	※確実に連絡の取れるものを、ご記入下さい。			
参加費 ※該当する所 を○で囲み、 金額を記入し て下さい。	宿泊	一般		円
		学生		円
	通い	一般		円
		学生		円
参加 分科会 ※どれか1つ に○を付けて 下さい。	4年「社会」 「ごみのしよりと 利用」	4年「国語」 「ごんぎつね・き みはほんとうにス テキだね(絵本)」	5年「社会」 「くらしと環境を 守る人々」	6年「社会」 「15年戦争で失 われた命と今を生 きる人々」
返信希望	あり ・ なし			